

篠崎町七丁目町会

(東京都江戸川区)

キーワード(活動内容)	発災対応型防災訓練
連携状況	まちづくり協議会、子供会、PTA、老人会、コンサルタント、区、消防署、消防団、警察署等と連携している。

活動概要

1. 活動の経緯

本町会は昭和30年代からのミニ開発により、行き止まり私道の木造密集地を多く抱えている。また、住民の高齢化が問題とされる一方で、地下鉄の開通による高層マンションが建設され、それによる新住民が増加している。

昭和50年代には市民消火隊が存在し、簡易式の消防ポンプで防災訓練を行っていたが、近年は活動していなかった。

しかし、阪神・淡路大震災によって防災意識の重要性が再認識され、町会役員を中心に、消防署、消防団の指導を受け、消防ポンプを活用した訓練を行ってきた。

また、平成10年に発足した「まちづくり協議会(テーマ:区画整理による災害に強いまちづくり)」と連携して自主防災訓練を企画実施した。

なお、町会の会員数は、平成13年現在で900世帯(地区内1,300世帯)に達している。

2. 活動の内容

(1) 防災まちづくり訓練

まちづくり協議会・区・消防署・警察署等の指導を仰ぎながら、PTA・子供会・老人会等と連携して、防災まちづくり訓練(同時多発・発災対応型防災訓練)を実施した。いざという時に備えて「困った時に支えあえる地域」「災害に強いまち」をテーマに、地域住民主体で企画・立案実施したものである。

(2) 歳末特別警戒パトロール

町会の防犯部、防火部共催で町会員、PTA、中学生、子供会等延べ160人から200人が毎年12月21日から29日まで歳末特別警戒パトロールを実施している。

(3) 防災図上訓練

まちづくり協議会等とともに防災図上訓練を実施している。「いざという時に役立つ災害対策を考える」をテーマに、地域の災害対策の組織化と緊急時にどのような事ができるかを検証している。

3. 活動における苦勞・課題

防災まちづくり訓練を企画する際に苦勞した点は以下のとおりである。

- (1) 会場の公園、校庭、PTA、子供会等への協力依頼はスムーズにいったが、消防署・警察署に対しては実施日時や内容の連絡調整を早期に行う必要があり、時間的制約のもとでの調整に苦勞した。
- (2) 形骸化した訓練には住民の関心を呼ぶことはできないことから、インターネットなどを活用して様々な情報を入手して内容の工夫を図った。
- (3) 住民自身が自主的に参加しやすい企画としたが、発災対応型防災訓練の事例が少ないために、事前に時間をかけて十分な打ち合わせを行った。
- (4) 多数が参加する訓練には事故の防止に配慮する必要があるため（特に子供とお年寄りの交通事故など）、警備等に人数を要した。

4. 今後の予定

本町会では一層のコミュニティの拡充を図るとともに、毎年防災訓練を実施していきたい。平成14年には自主防災組織を立ち上げる予定で、その中で防災ボランティア、防災リーダーの育成を目指す予定である。

資料一覧

資料1 (写真)防災まちづくり訓練風景

消火器訓練

救出訓練1

救出訓練2

応急救護訓練

負傷者搬送訓練

炊き出し訓練

資料2 防災まちづくり訓練タイムスケジュール

資料3 図上訓練タイムテーブル

団体連絡先

担当者	篠崎七丁目町会役員(佐藤)
住所	〒133-0061 江戸川区篠崎町7-5-3
TEL	03-3678-1342
FAX	03-3678-1502
メール	y-knit@gem.hi-ho.ne.jp

資料1 (写真) 防災まちづくり訓練風景



消火器訓練



救出訓練



救出訓練



応急救護訓練



負傷者搬送訓練



炊き出し訓練

資料2 防災まちづくり訓練タイムスケジュール

1999. 6. 4

■『防災まちづくり訓練』・タイムテーブル

藤崎駅西部地区まちづくり協議会・藤崎7丁目町会 合同企画

時刻	第1会場 (藤崎第二子供の広場)		まちなか会場 (7丁目4,5,8番地)		第2会場 (藤崎第4小学校)			
	委員・スタッフ	委員・スタッフ	4,5,8番地住民 (自宅にて待機)	委員・スタッフ	委員・スタッフ	住民 (4,5,8番地以外)	子供会	炊き出し班
0:30	集合 事前打ち合わせ	【消火訓練班】 人員配置・準備	《初期消火訓練》 《救出・救護訓練》	【救出訓練班】 人員配置・準備				
1:00	平成11年6月20日・午後1時、東京東部に直下型地震発生(広報車、ハンドマイク)							
1:05	【本部】 《情報収集訓練》 各班から報告される情報を収集・整理⇒対応を指示	1:05 発煙筒点火 指示「消火器5本で消火」等 時間管理記録 対応の評価・判定	火元確認・安全確保 【4・8街区】同時多発的 화재が複数の私道で発生 【5街区】家具の転倒などにより、けが人発生 家の外へ避難 火災の発見「火事だー」 被災家屋の発見 近所に助けを求める 初期消火活動 鎮火・延焼⇒本部へ報告し 小学校へ避難 リーダーが指示本部に状況報告 人・道具を集める・安全な場所へ搬送 応急手当等の救護活動	1:05 けが人宅に看板などを設置 指示「15人集まれば救出」等 時間管理記録 対応の評価・判定	集合 ?	集合 ? , 体育館にて子供会行事	【炊き出し班】 下準備	
1:45					担当スタッフは事前準備			
1:50	(第1会場・まちなか訓練終了⇒第2会場の藤4小へ移動)							
1:50					あいさつ、消防署の人の話(実地訓練講評、説明)			
1:55					来場者の振り分け			
2:25					【救護班】 介護実習 健康チェックコーナー	【救出班】 がれき撤去実習 地震車体験コーナー	【消火班】 ポンプ放水訓練 消火器操作訓練 〈展示コーナー〉 ・簡易トイレ ・備蓄物資	【炊き出し班】 炊き出し訓練
2:25					バケツリレー対抗戦			配食
2:45					炊き出しご飯試食会(おやつ)			
2:55					講評、感想カードを書いて解散			

資料3 図上訓練タイムテーブル

鐘崎七丁目町会防災訓練『図上検討会』・タイムテーブル

平成12年11月12日実施予定

テーマ：いざというとき役立つ災害対策を考える

2000.11.2

日時	実際の時間	行動の流れ
11/12	12:30	<p>【想定】 11月12日、午後12時30分、南関東を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し、当地区でも震度6強の揺れとなりました。当日の天候は、その時の天気、気温、風向・風速等をそのまま参考とします。</p> <p>地震発生</p> <p>身の回りの安全、自宅・家族の安全の確認後、近隣の様子を調査する</p>
13:00	13:00	<p>緊急対策本部・町会会館（実際は遊園小）</p> <p>緊急対策本部へ集合</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅から緊急対策本部の活動で役に立ちそうなものを持ってくる 近隣の被害情報を持ち寄る（地震発生後に事前に渡された封筒を開け、近隣の被害想定を読む） <p>作業1：本部に集まった皆さんが何を持って集まったのか、なぜそれを持ってきたのかについてポストイットに書いてもらい、全体でまとめます。</p>
13:15	13:10	<p>地域全体の被害情報（第1次情報）の集約と整理</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、災害対策本部のリーダーと情報を集約するリーダーを決め、対策本部に集まった人が持ち寄った情報を集約し、整理する <p>作業2：本部に集まった人たちが持ち寄った情報を地図や表に集約し、整理します。並行して、集まった皆さんの目録の役割や、このまちのために何ができるかということも考慮に入れて、対策本部での役割を決めていきます。</p>
14:00	13:40	<p>災害対策本部の組織化</p> <p>災害対策計画の立案・実行</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんの目の前で起こっている状況に機動的に対応し、被害を最小限に食い止めるために役割分担と役割ごとのリーダーを決める。 役割ごとにグループに分かれて、集まった情報をもとにそれぞれがすべきこと、行動計画を考え、実行する。 <p>【災害対策本部】</p> <pre> graph TD A[本部長] --- B[情報班] A --- C[消火班] A --- D[救出・救護班] A --- E[避難誘導班] A --- F[生活班] </pre> <p>作業3：各班はグループに分かれて、次の作業をします。 ①リーダーの選任→②状況の確認→③地域で活用できる資源の洗い出し→④判断・人員の割り振り→⑤地図上で機動的に実行→⑥結果を想像する</p>
14:10	14:10	<p>それぞれの班の行動計画と結果についての情報集約</p> <ul style="list-style-type: none"> 本部長、情報班と各班は緊密な連携をとり、刻々と変化していく状況をできるだけ正確に把握しあい、混乱や二次災害の防止につとめる。 <p>作業4：各班から、「どういう状況に対し、どう対応し、どういう結果となったか」ということについて発表します。 各班の発表内容について、他に活用できる地域の防災資源がなかったか、より適切な対応があり得たかどうか考えます。</p>
14:30	14:30	<p>遊園所（実際は遊園小の教室、体育館、他）</p> <p>被災3日後までの避難所運営計画を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部にとっては息をつく暇もありませんが、晩秋の季節は日没も早く、あたりは暗く、寒くなってきました。また、小学校には家を失った人や不安で集まってきた人が続々と押し寄せています。 ラジオによると首都圏は混乱状態にあり、今後3日間も交通（首都高、鉄道）、電気、水道などの復旧の見通しが立たないことが伝えられました。また、大きな余震が起こる可能性も高そうです。まとまった救援物資等が期待できない状況で避難所を運営する必要があります。 <p>作業5：まとまった救援物資等が期待できないという前提で、今後3日間の避難所運営について考えます。緊急対策本部に集まった人や小学校へ避難してきた人の中の動ける人で、どのように役割を分担し3日間生活していくかについて考えます。 この3日間をみんなで生き延びるために必要な物品を数えている商店などを探します。</p>
11/13	15:30	<p>1日後</p> <p>作業6：今日の作業を通して発見した緊急時に役立つ地域資源を活用できるように、目録からの準備について考えます。 （例）水利・資器材の管理、商店や所有者等との関係づくり、組織づくり、目録からの活動、など</p>
11/14	15:45	<p>2日後</p> <p>まとめ：関係組織の代表の方から講評とまとめをしていただきます。</p>
11/15	16:00	<p>3日後</p>

- 【参考】 江川川町の資料より
- 遊園小の備蓄物資
 - 毛布 ……1, 890枚
 - 洋式布団 …… 850枚
 - カーペット…1, 680枚
 - 乾パン ……50, 048食
 - 台車（1台）
 - 20リットルタンク（105個）
 - 遊園小の収容可能人員
 - 短期 ……2, 749人
 - 長期 ……1, 375人
 - 総食能力：1, 500人

戻る